お茶の水女子大学
Ochanomizu University

グローバルリーダーシップ研究所

Institute for Global Leadership

ニューズレター　第5号　平成28年12月

News Letter Vol. 5, 2016.12

【お問合せ先】
人間文化創成科学研究科棟506室
Tel/Fax: 03（5978）5520
E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp
URL: http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/

国際シンポジウム／第6回・第8回リーダーシップ理論勉強会の報告

※ 第7回リーダーシップ理論勉強会で報告した調査内容については、本研究所の『平成27年度　成果報告書』p.34～p.37をご覧ください。

科学分野における女性のリーダーシップに関する国際シンポジウム開催のお知らせ（2017.2.20）

お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所はカレン・シャイア特別招聘教授が企画する**国際シンポジウム“Improving Gender Balance of Participation in Science: European and Asian Experiences”**を**2017年2月20日（月）**に開催します。国内外からゲストをお呼びし、科学分野における女性人材の育成とリーダーシップ向上に関する研究や政策、活動等について国際的な観点から議論します。

アリソン・ウッドワード氏（ベルギー ブリュッセル自由大学教授、政治学者。専門はヨーロッパにおける政治・経済・科学のクオータ制）からヨーロッパでの最近の議論や現状について、**チョ・ソンナム氏**（韓国 梨花女子大学校教授・梨花リーダーシップ開発院所長、社会学者）から梨花女子大学校リーダーシップ開発院でのSTEM分野におけるリーダー育成のための活動についてご紹介いただき、**安西祐一郎氏**（日本学術振興会理事長、前慶應義塾長）から日本の現状についてのご紹介と他の登壇者へのコメントや質問をしていただきます。

その後、登壇者全員で課題と今後の展望について議論します。皆様のご参加をお待ちしております。

グローバルリーダーシップ研究所国際シンポジウム

タイトル：**Improving Gender Balance of Participation in Science : European and Asian Experiences**
対象：本学学部生・大学院生、教職員、一般
司会：カレン・シャイア氏（グローバルリーダーシップ研究所海外特別招聘教授）
登壇者：アリソン・ウッドワード氏（ブリュッセル自由大学教授）
チョ・ソンナム氏（梨花女子大学校教授・梨花リーダーシップ開発院所長）
安西祐一郎氏（日本学術振興会理事長）
日時：**2017年2月20日（月）　16:00～18:10（予定）**
場所：**お茶の水女子大学　共通講義棟2号館201室**
※事前申込みにて受付
後日、研究所ホームページにて掲載予定

【海外特別招聘教授のご紹介】

カレン・シャイア氏は、ドイツ デュースブルグ・エッセン大学教授で、専門は比較社会学と日本学です。2016年10月1日より2年間、グローバルリーダーシップ研究所に特別招聘教授として在籍し、本学においてリーダーシップ研究・教育を担当します。

2016年度は**大学院特別講義「ジェンダー論特別講義」“Promoting Women in Global Leadership – A Comparative Perspective”**を開講します。クオータ制などの政策や、科学、経済、政治、司法等の女性の代表性について**英語によるワークショップ形式の授業**を行います。語彙についての質問にも対応し、**受講を通じて英語のスキルを向上**させることもできるよう授業を進めます。専攻・コースを問わず、関心のある院生、学部生の受講を歓迎します。（学部生は聴講のみ）

講義内容は研究所HPをご覧ください。

カレン・シャイア教授

日時：2017年2月13日（月）～17日（金）
1・2限～5・6限
場所：大学本館1階125室
問合せ先：グローバルリーダーシップ研究所
info-leader@cc.ocha.ac.jp
http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/

「女性研究者のグラスシーリングを破る～ 工学系女性研究者がいっそう輝ける社会に向けて ～」シンポジウム／ワークショップを開催しました（2016.12.10）

芝浦工業大学にて、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」の一環として、シンポジウムとワークショップを開催しました。当日は150名以上の参加がありました。

前本学学長 羽入佐和子氏の基調講演では、女性の進出・活躍がもたらす新しい視点や発想が社会を変える、と期待を込めたお話をいただきました。

第1部パネルディスカッション「連携の成果を次につなげる」では、本研究所の塚田和美所長より3機関連携による事業の成果報告がなされ、その後、本学 猪崎弥生副学長、芝浦工業大学 村上雅人学長、物質・材料研究機構 長野裕子理事が、各機関の取組と成果について報告されました。パネルディスカッションでは成果をどのように今後の活動に繋げ、さらなる発展をするのかについて有意義な議論が交わされました。

第2部ワークショップ「女性研究者のグラスシーリングを破る」では、三菱ケミカルホールディングスアメリカ社社長 ドナ・コスタ氏によるビデオメッセージ“Breaking the Glass Ceiling”が上映されました。

パネルディスカッションでは、ファシリテーターに昭和女子大学 坂東 眞理子理事長・総長をお迎えし、パネリストとして岩手大学 菅原 悦子理事・副学長、IEEE WIE 橋本 隆子Chair、お茶の水女子大学 室伏 きみ子学長、芝浦工業大学 國井 秀子学長補佐の4名に登壇いただき、どのようにグラスシーリングを破ってきたのか、どのように偏見を破るかなど、活発な議論が交わされました。

ご参加くださった方々からは、「『工学系』や『女性』に限らず、全ての（男女問わず、文理問わず）人に聞いてもらいたい、考えてほしい内容でした」などのご感想が寄せられました。

ハワイ大学のファッションデザインプログラムの視察・調査（第6回勉強会2016.10.13）

お茶の水女子大学　基幹研究院人文科学系　助教　難波知子

「平成27年度リーダーシップ教育研究のための教職員海外派遣・調査研修者」に採択され、**2015年9月14日～20日まで、ハワイ大学マノア校にて開講されているFashion Design and Merchandising Degree Programの授業や大学の施設・設備、コスチューム・コレクションを視察・調査**しました。

テキスタイルの講義では、学生は、事前に学習用のパワーポイントをダウンロードしていました。また、学生に提供されるデータには、全ての情報を記載せず、キーワードなどを空欄にし、学生本人に入力させる工夫がされていました。

製作実習では、成績評価のポイントや提出物の期限が明確に示され、学生は自身の製作物に対するレポート（自己評価）を提出します。また配付されるレジュメはシンプルで、情報量が少なく、必要な情報を学生に補わせる工夫が見られました。コスチューム・コレクションの実習では、展示全体の企画からコレクション1点ずつの調査・記録までを学生に担当させ、実際に実物に触れながら、素材やデコレーションの技法などを教員が説明していました。ここでは、テキスタイルの講義で学習した知識が、コレクションの調査の経験として活かされ、科目間の連携・協同がなされていることが確認できました。そして、収蔵施設内にあるコレクションやその管理状況を調査した後、コレクションの50周年を記念して制作された展示も見学しました。

大学附属図書館の見学では、ハワイ大学が所蔵する貴重本や日本及び東アジアの服飾文化に関する文献を閲覧しました。

以上の**視察調査を通して学んだことを、帰国後自らの授業にも積極的に取り入れました**。まず、**1年生向けの授業では**ファッションを学ぶ際に基礎となるテキスタイルや素材、染色に重点を置き、授業を展開していきました。さらに、**アクティブラーニングを意識した、たたみ染めといわれる染色の実習**を実施しました。また、レジュメを配付する代わりに、Moodleにてパワーポイントを掲載し、必要に応じてダウンロードするという手法をとり、教科書も指定するようにしました。そして、授業のノートを最後に提出してもらい、学生がどのようなことを学んだのかを評価するという形になりました。また、服飾史の授業でも、学生が主体となって資料の展示に取り組むようにして、本や写真だけではなく、実物に接する機会も設けました。

今後は、学生の様々なニーズが重なる点を中核として、そこから各自がその学びを伸ばしていくことができるような授業構成を目指していきたいと思っております。その際、積極的に体験学習、実習を取り入れたいと考えています。また、1つの科目で出来ることは限られていますので、科目間・教師間の連携を取り、学習内容を組織化していきたいと思っています。

報告後の質疑応答の時間には、活発な議論が行われ、大変有意義な勉強会となりました。

第6回勉強会の様子
（附属図書館内
キャリアカフェ）

「言語・教育と多様性」を考える：“Language, Education and Diversity Conference”調査報告（第8回勉強会2016.11.24）

お茶の水女子大学　基幹研究院人文科学系　助教　加納なおみ

「平成27年度リーダーシップ教育研究のための教職員海外派遣・調査研修者」に採択され、**ニュージーランド・オークランド大学で4年に1度開催される“Language, Education and Diversity Conference”（以下、LED）に参加**しました。そして、勉強会では**多文化多言語教育に関するワークショップなどを通じて学んだことを本学の授業にどのように反映したのかについて、調査報告を兼ねて発表**させていただきました。

LEDは、特に**多文化多言語環境における先進的・革新的な言語教育の実践、理論と教育政策に接点を提供する場**として世界中から専門家が集まります。会場となったオークランドは先住民族のマオリ族の母語復権運動でも知られるため、少数言語の保護とバイリンガル教育の実践において、多くの蓄積があります。

LEDの4大テーマは、①Bilingual/immersion education ②English language education ③Language education planning and policy ④Literacy education (including adult literacy)で、本学がめざす、キャンパスのグローバル化に直結するテーマでした。

本調査の目的は以下の3点です。

(1)マルチリテラシーズ獲得やバイリンガル教育などについての最新の実践や理論を学ぶ（留学生への教育の充実及び大学院における専門教育に広く活かせる知見を獲得する）

(2)本学における英語教育に活かせる知見を得る

(3)ニュージーランドの多文化主義・バイリンガル教育に関し、理解を深める

目的(1)についてはワークショップ・基調講演・発表で学んだ理論や実践を2015年後期の授業（大学院授業・学部リベラルアーツ（以下、LA）授業）から積極的に取り入れています。目的(2)(3)についても、得られた知見を2016年後期より英語で実施中のLA授業にすでに反映していますが、今後は母語活用を含み、さらに発展的に組み込む予定です。また、2016年8月に本学で開催した研究会大会（母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究会）の大会運営、プログラムにも、本調査で得られた知見を反映し、広く社会全般へ還元することができました。

今後は、「グローバル化」と「多様性」について、学生の認識をより深く考察するとともに、日本の高等教育における教育言語の役割と位置づけ・バイリンガル教授法等の観点から本調査の具体的な成果を反映させていきたいと思います。

質疑応答では、多くの方から多言語教育や、本学での授業内容などに関するご質問があり活発な議論となりました。

第8回勉強会の様子
（附属図書館内
キャリアカフェ）